

よりよいセンターを目指して

分析センター長 佐藤 勝

本学の分析センターは既に 20 年以上の歴史を持つに至っています。現在でも毎年国立大学に 3~4 つの分析センターが設置されていますが、全国的に見てほぼ各国立大学に分析センターが設置し終わった感があります。本学の分析センターは非常に早い時期に設置され、しかも学内の教職員の一方ならぬご協力のおかげで、全国的に見てもモデルケースの分析センターとして発展することができました。その特色をあげると、①ほぼ完全に近い共同利用形態がとられている。②維持費を完全にプールして機器の維持に使用している。③Web 対応の予約システムが稼働し、機器予約の平等性が確保されている。学内にありますと、これらの優れた体制が整備されていて分析機器が容易・安価に利用できますので、ともすればそれが当然であると思ってしまう、その有難味がわからなくなっているような気配さえ感じられるのです。ちょうど、オアシスにばかりいると周りの砂漠での水の有難味がわかりませんように、先発の分析センターであることと体制が整備されていることから学外でも高く評価され、後発の分析センターの目標とされているような面もあります。筑波大学、千葉大学の分析センターと共に呼びかけて設立された「全国国立大学機器・分析センター会議」も昨年で第 5 回を数え、全国の機器・分析センターが抱える諸問題を討議してきました。昨年は埼玉大学分析センターが 2 回目の当番校となって大宮ソニックシティで開催されております。

このように、内外で高い評価を得て発展してきている分析センターではありますが、全く問題がないのかというと、むしろ多くの問題点を抱えてもがいていると言った方がよいかもしれません。現在 30 数機種 of 分析機器を保有していますが、導入されてからかなり年数を経た機種が多く、最先端の研究のために十分な精度の測定が可能でないのに更新がままならない点や保守管理の費用がかさむようになってきている面が指摘されています。また、設置されている機器の数に対して保守管理に携わる選任スタッフの員数が少なく、若手の教職員の犠牲的、サービスの協力にも関わらず十分な保守管理がままならない現状があります。また、現代の風潮を反映しているのでしょうか、センターの機器は使うが保守管理には全く協力しないといった自己中心的な教職員も増えてきているようです。昨年度、これらの問題点を指摘した「分析センター自己点検・評価委員会報告」がまとめられました。吉岡前センター長の強い要請もあり、今年度には「分析センター改革実施委員会」を設置し、この報告書に指摘された問題点を改善する具体的な方策を検討中です。利用者や教職員各位のご協力を得て、より利用しやすい分析センターを目指して努力していきたいと考えております。

昨年度開催された「全国国立大学機器・分析センター会議」で文科省の担当課長から説明のあった大学内共同利用センターの統合の動きについて、本学でも分析センターを中心にして大学内の共同利用センターを統合した「総合分析支援センター(仮称)」の設立を目指して来年度の概算要求を行なっています。その中で、分析センターは「機器分析部門」を担うことになっていますが、これまで以上に分析機器の利用しやすいセンターになるように努めていきたいと思っております。

最後に、昨年まで分析センターの専任として分析センターのよい面・悪い面を知る立場にありましたので、センターについての思いの一端をも含めて書かせていただきました。また、分析センターはあくまで学内の教職員の協力があって初めて正常に機能する組織であります。今後とも、よりよい分析センターにするために教職員皆様のご支援・ご鞭撻を心からお願いする次第です。